

「恵みを数えましょう！」

詩篇 103:1~5

① 神の御性質の恵み

私が12歳のとき、親友が病気で亡くなりました。彼の葬儀で、お坊さんは「この子はこれから長い旅に出ます」と言われました。私は親友に「どこに行かれるんですか？」とたずねましたが、勿論、返事はありませんでした。しかしそのとき、私の心に「私が死んだらどこに行くのか？」という思いが湧いてきました。「私は死んだらどこに行くのだろう…」。それを知りたいと思い、私は熱心に難行、苦行に励みました。しかし、神主に聞いても、お坊さんに聞いても「それは死んでみなければわからない」と言われました。私はわからないまま死にたくなかったので、死んでみなければわからないなら死んでみよう“と思い、家族に遺書をしたため、真夜中に家を抜け出して、最終の汽車に飛び込みました。しかし、まことの神様は前もってすべてのことを知っておられたのです。“この男の子は14歳のときに鉄道に飛び込む。だから、飛び込んだときに二本のレールの間にからだを納まる程度の身長にしておこう”と。二本のレールの間に納まった私の上を、汽車は通り過ぎていきました。そんな私を、以前から教会に連れて行きたいと思っていたクリスチャンの先輩がいました。1947年12月31日の夜、私は除夜の鐘を聞くためにお寺に向かっていた道中で、彼にばったりと出会い、そのまま彼に連れられて、教会へ行きました。そこで、スウェーデンの宣教師からまことの神様はただ一人ということを知ったのです。『まことの神様はただ一人です。あなたが家に帰って「お父さん！」と呼ぶと、奥から「なんだ」「なんだ？」「なんだ！」と、三人もお父さんが出てきますか？』と言われ、私ははっとしました。私は毎日、八百万もの神々に「お父さん！」と呼び掛けていましたが、その八百万の神々は黙ったまま応えてくれませんでした。しかし、まことの神様はただ一人だったのです。しかも、そのお方は見えないため、イエス・キリストが見える姿で来られ、言葉においても行いにおいても間違いがなく、その性質は、純粹、純潔、完全でした。そうして、人の罪をすべて負って十字架にかけられ、三日目によみがえるといふ信じられないことが起こったのです。だからこそ、自分の努力、難行、苦行ではなく、イエス様を信仰によって受け取るならば、イエス様が罪を赦し、心を聖くし、永遠のいのちを保証してください。「詩篇 103:1 聖なる御名をほめたたえよ。」まことの神様は力ある、生きた、聖い、愛ある神様です。今まで、いろいろな神々をもっていたかもしれませんが、生きた、まことの愛なる神様を発見してください。そして出会ったならば、ますます神様と一緒に生きていきましょう。

② 神様の御業の恵み

詩篇 103:3-4からは、神様の恵みを数えることができます。「103:3 主は、あなたのすべての咎を赦し、」とあります。この“すべて”が大切です。イエス様はすべての罪を赦してくださいました。私ができる分だけは自分で一生懸命に努力しない、と言っているのではなく、聖書には、あなたのすべての罪・咎を赦すと書かれています。私たちの罪は100%赦されたのです。なんと素晴らしい恵みでしょうか。次に、「103:3 あなたのすべての病をいやし」とあります。創世記でアダムとエバが善悪の実を食べた行為は、神様と相談をせず、自らの知恵と力と努力で生きていく行為でした。その結果、私たちは生まれる前から罪をおかす性質を持って生まれてきました。しかし、神様はその歪んでしまった性質を、すべての病をもう一度、完全に回復してくださいと言っています。ここに、回復の恵みが約束されているのです。続いて、「103:4 あなたのいのちを穴から贖い、」とあります。贖いとは、永遠の命、イエス様が死からよみがえられた命のことです。私たちがキリストに

よって義とされるのならば、キリストと同じ姿に変えられていく恵みがあるのです。そして、「103:4 あなたに、恵みとあわれみとの冠をかぶらせ、」とあります。オリンピックでメダリストの頭に月桂冠がかぶせられるのと同じように、私たちの人生にも、主が栄光の冠をかぶらせてくださいます。そして、「103:5 あなたの一生を良いもので満たされる。あなたの若さは、鷲のように、新しくなる」のです。現実には歳を重ね、外側の肉体は衰えていきますが、内側は不平や不満がなく、神様からの良いもので満たされていきます。毎日が主によって新しく生きていく恵みです。イエス様はあなたと共に生きておられます。黙って鎮座されている方ではありません。あなたが呼ぶとき、そばに来てくださり、苦しいときに助けに来てくださるお方です。私たちには苦しいこと、嫌なことが起こりますが、私たちがイエス様を呼び求め、イエス様と生きるならば、それら一つ一つのことを変えられていき、整えられ、不平や不満から解放されていきます。

③ 目的のゆえに恵みを数える

神様は私たちに目的を持っておられます。「103:20 主をほめたたえよ。御使いたちよ。みことばの声に聞き従い、」とあります。私たちが神様の言葉に聞き従うとは、聖書を読むことです。御言葉を読むことによって、神様の目的、こころがわかります。そして、その読んだ箇所から、神様は個人的に御声をかけてくださっています。その御言葉に耳を傾け、聞き従っていきましょう。次に、「103:21 みこころを行い、主に仕える者たちよ、」とあります。神様が成されたいことも聖書を通して知ることができます。そして、それを知ったならば、そのとおりに行う、主のみこころを行う人になりましょう。「103:22 主をほめたたえよ。すべて造られたものたちよ。主の治められるすべての所で。わがたましいよ。主をほめたたえよ。」これは、神様の力で生きていくということです。主はすべてをご存知で、私たちを含め、すべてを治めておられる方です。自分の力ではなく、神様とともに生きていく恵みを受け取りましょう。

最後に

主が与えてくださっている5つの恵みを数えましょう

- ① 救いの恵み
- ② 回復の恵み
- ③ 永遠のいのちの恵み
- ④ 満足の冠の人生の恵み
- ⑤ 永遠の若さで生かしてくださる恵み

神様は私たち、一人一人に恵みを与えてくださっています。神様が与えてくださっている恵みを数え、感謝して受けとるとき、神様の目的、みこころを知ることができます。主は私たちをそむきの罪から引き離してください、あわれみ、私たちを心に留めてくださるお方です。主が忍耐しておられるように、私たちがへりくだり、私たちや私たちの家族、地域、そして日本全体が神様によってつくり変えられていくことを期待し、イエス様と一緒に生きていく、冠の人生を歩んでいきましょう。

(要約者:岡本 享子)

(2019年2月24日)